

■地球温暖化とCO<sub>2</sub>と農業の関係について教えてください。

●お答えします。

資源循環工学研究領域 資源循環システム担当

上席研究員 柚山義人

地球温暖化とCO<sub>2</sub>濃度の関係は、IPCCの報告により確実性の高い科学的根拠をもつと認識されています。一部にCO<sub>2</sub>主因説に根拠はないという主張も出ていますが、次世代にとりかえしのつかない大きなつけをまわさないために、温室効果ガス排出量の削減対策を講じておくことは不可欠と考えています。

温暖化により温度変化(通常は上昇)が生じると農業生産の適地が変わります。品種の選択、栽培や水管理の方法を温暖化に適用するように変更する必要があります。海面上昇や水資源の変化に対応して、農業生産基盤の見直しも必要になるでしょう。CO<sub>2</sub>そのものは植物の光合成に必要な物質です。

わが国では、農業が温暖化に寄与する割合は約2~3%と推定されています。土地生産性、労働生産性の向上を目指した結果、かつてエネルギー生産産業であった農業が消費産業になり、他の産業に比べて省エネ対策が遅れています。温室効果ガスの排出は、そもそも化石資源の利用の反映です。農業・農村において、バイオマス、小水力などの再生可能エネルギーを生産・利用する仕組みを強化し、地域資源を上手に循環利用することで循環型社会を形成することは、地域活性化の駆動力にもなります。それぞれの地域で温暖化というリスクに備えるとともに、その対策を他の施策とリンクさせて魅力的な地域づくりにつなげたいものです。

なお、この回答を準備するにあたり、(独)農業環境技術研究所の専門家から情報を提供いただきました。

(関連資料)

<http://seneca21st.eco.coocan.jp/working/index.html#yuyama37>

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/pdf/nouki\\_manual2.pdf](http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/pdf/nouki_manual2.pdf)